

# グルジア政治・経済 主な出来事

【5月6日～5月12日】2013年

〔当地報道をもとに作成〕

平成25年5月14日

在グルジア大使館

## 主な動き

### 1. アブハジア・南オセチア

#### 【アブハジア】

2013年第1四半期の税収は約415百万ルーブル(9日)

・「税務省」が発表。前年同期比6%増。未納金は約70百万ルーブル

#### 【南オセチア】

「法務大臣」が新党「祖国」を結成(7日)

・「法務省」に登録されている政党は計13。

南オセチア「大統領」がナゴルノ・カラバフ「大統領」に戦勝記念日を祝う手紙を送る(8日)

行政境界線付近での拘束が増えていることについてEUMMが懸念を表明(8日)

### 2. 外政

ザルカリアニ外務次官が国連本部を訪問(1日-7日)

・アブハジア・南オセチアからの国内避難民に関する国連決議への支持を集めるため、各国の代表団と二国間交渉を行った。

・2008年以降、毎年国連総会で提出しており、決議を支持する国は少しずつ増えている。2012年の決議に対しては支持60カ国、不支持15カ国、棄権82カ国。

ガリバシヴィリ内務大臣がイスラエルを訪問(6日)

・イスラエルの防衛大臣、テロ対策局長らと両国の協力について会談し、イスラエル防衛庁(Home Front Defence Ministry)とのあいだで、緊急事態における協力についての覚書に署名した。

OSCE議員会議議長、南コーカサス担当特別代表、議員会議事務次長がグルジアを訪問(7日-9日)

・国会の与野党の代表者と会談。8日には、NGOの代表者、ザカレイシヴィリ再統合問題担当大臣、サーカシヴィリ大統領、イヴァニシヴィリ首相らと会談。グルジアの民主化を評価。

サーカシヴィリ大統領がアリエフ・アゼルバイジャン大統領とバクーで会談(7日)

・両国関係や将来の協力について話す。バクー・トピリス・カルスを結ぶ鉄道の意義を強調。

・7日、サーカシヴィリ大統領はバクーで開かれた「南コーカサス会議」で講演。「アゼルバイジャンの情勢不安定化を望む勢力が存在する」として暗にロシアを批判した

他、将来的には南コーカサス地域が一体となることを望むと発言。

カラゼ・エネルギー天然資源大臣が天然ガスの輸入についてロシアとの交渉の可能性を示唆(7日)

・現在、天然ガスはアゼルバイジャンからのみ輸入しており、輸入先の多角化が必要。ただし、ロシア産ガスはアゼルバイジャン産に較べかなり高価であり、ロシアからの輸入が始まれば、ガス料金が上がる可能性がある。

・同大臣はまた、ロシアから廉価な電力を輸入する可能性についても述べた。

・サーカシヴィリ大統領は「輸入先の多角化はトルクメニスタンやカザフスタンとの交渉を通じて進められるべきであり、エネルギーの面でロシアに依存することは決して容認できない」と批判。

ミュラーFBI長官がグルジアを訪問(8日)

・長官のグルジア訪問は2010年5月に次いで2度目。イヴァニシヴィリ首相、ツルキアニ法務大臣、クビラシヴィリ主任検察官と会談。二国間協力およびソチ五輪に関連した問題を検討した。

ガラエフ・アゼルバイジャン文化観光大臣がグルジアを訪問(8日-9日)

アラサニア国防大臣がトルコを訪問(8日-10日)

・イスタンブルで行われた第11回国際軍事産業フェア(IDEF)に参加。スリランカ代表団と会談。

・10日、ユルマズ国防大臣と両国の協力や将来の計画について会談した。

### 3. 内政

イヴァニシヴィリ首相が国会で審議中の労働法改正案を批判(7日)

・改正案は法務省が提出したもので、先月国会が第一読を承認した。2日にはマルグヴェラシヴィリ副首相・教育大臣が同改正案を「労働者の権利を過度に尊重している」として批判。首相は副首相の批判に同調。「投資を促進するために、雇用者と労働者の権利は50対50ではなく、雇用者の側により大きな権利を認めるべきだ」と述べた。

ウスパシヴィリ国会議長が「十分な時間がないため大統領選挙まで憲法の重要な変更は行われぬ」と発言(8日)

・1月にヴェネチア委員会の委員長と会談した際、「ウ」議長は、現行憲法の抜本的見直しを検討する委員会の設置を約束していた。委員会は5月末に設置されるが、「重大な変更を性急に導入することはできない」と述べた。

・「国会をクタイシに置く」という条文の削除について、「ウ」議長が「秋まで議論されないかもしれない」とする一方、9日、与党連合「グルジアの夢」(GD)のベセリア議員は「10月までに決まる」との見通しを示した。

憲法裁判所の審査期間を短縮する改正案に対し、サーカシヴィリ大統領が拒否権を発動(10日)

・4月19日、GDが提出した法案を国会が承認。  
・現行法では、憲法裁判所での法案の審査は最大11カ月かかり、その間法律の施行は延期され得る。改正案は、その期間を最大45日に短縮する。

・グルジア青年法律家協会など6つのNGOが「審査期間が短すぎる」と批判する共同声明を発表していた。

大学の法的地位を変更する法案に対し、サーカシヴィリ大統領が拒否権を発動(10日)

・4月19日、教育省が提出した法案を国会が承認。同法案は大学を「私法人」(private legal entity)から「公法人」(public legal entity)へと変更するもの。

・同法案によって資格が変更されると、大学の自治が制限され、大学に対する政府の支配が強まるとして、イリア国立大学とトビリシ国立大学の学長が大統領に拒否権の発動を要請していた。

・なお、大学は以前は「公法人」であったが、2012年1月に「私法人」に変更された。

GDの大統領選候補が発表される(11日)

・11日、イヴァニシヴィリ首相は、10月に予定されている大統領選挙でのGDの候補者はマルグヴェラシヴィリ副首相・教育大臣であると発表。

・野党「統一国民運動」(UNM)は5月末に党内で投票を実施して候補者を決定する予定。ただし、投票の実施方法はまだ固まっていない。ギオルギ・バラミゼ議員、ダヴィト・バクラゼ議員が立候補の意思を表明している。

・ほかに、シャルヴァ・ナテラシヴィリ労働党党首が大統領選への出馬を明確にしている。

トビリシ市内のレストランで起きた小ざり合いでUNM議員らが負傷(11日)

・11日深夜、市内のフランス料理店でUNMのサクヴァレリゼ議員、ヴァシャゼ議員、ゴロジア・サメグレロ地方前知事が小ざり合いに巻き込まれ、腕や鼻の骨を折るなどして病院に搬送された。

・UNMによれば、議員らは「政治的な動機で」襲われた。ほかにもメラシヴィリ UNM 事務局長ら数人が同席していたとされる。

・内務省はフーリガン行為として捜査を開始した。

ジャーナリスト、パレサシヴィリ氏の盗撮映像を公開したとして、フヴェデリゼ第一内務次官が逮捕される(12日)

・映像は5月はじめにインターネット上で公開された。  
・「パ」氏は、「フ」内務次官ら3人がビジネスに対して権力を濫用していると激しく批判していた。4日、「パ」

氏は記者会見で、盗撮映像の公開に「フ」内務次官らが関与していると非難。

・ガリバシヴィリ内務大臣は、「パ」氏に対する報復として映像を公開したことを「フ」内務次官が認めたと発表。しかし、権力濫用についての「パ」氏の批判については「根拠がない」と述べた。

・現政権では最も高い地位の人物の逮捕。昨年10月30日に「ガ」内務大臣により第一内務次官に任命された。

ズラビシヴィリ元外務大臣が大統領選挙への出馬の可能性を示唆(13日)

・「ズ」氏はバラ革命後の2004年から2005年にかけて外務大臣を務めた。

・「出馬には大衆の支持が必要だ」として、今後数週間のうちに決断すると発言。

・ただし、規則では、大統領選挙の立候補者は、選挙前に最低3年間国内に暮らしていなければならない。「ズ」元外務大臣は2010年にイランについての国連専門家パネル調整官に任命されて以後、国内におらず、この点が問題となる。また、「ズ」元外務大臣は仏とグルジアの二重国籍者であるが、法律は二重国籍者が大統領になることを許していない。

#### 4 . 経済

トランスペアレンシー・インターナショナルは、2008年から2012年にかけて、550万ドル相当の物品と2530万ラリの資金が企業などから政府に寄贈されたと発表(7日)

・「Planet XXIII」から自動車77台、「トヨタセンター・トビリシ」から145万ラリ相当の自動車、「Goodwill」から168万ラリ相当の「トヨタ・ハイラックス」など。

ハドゥリ財務大臣がトルコで行われた欧州復興開発銀行(EBRD)フォーラムに出席(8日 10日)

グルジア国立銀行が基準金利を4.5%から4.25%に引き下げる(8日)

・インフレ率が目標を大きく下回っているため。カダギゼ国立銀行総裁は、2013年第1四半期の経済成長率1.7%(予測値)が期待に達していないので、2013年の目標成長率6%を引き上げる可能性があるとして発表。

EBRDが2013年のグルジアの経済成長率予測を3%に引き下げる(10日)

・1月に発表した5%から大きく引き下げた。「低調な投資と国会選挙に関連した政治的な流動性」のために、2012年末にかけて成長が減速したと分析。ロシアやトルコ、ポーランドなどでも経済成長の減速を指摘している。

1月から4月までのグルジアへの入国者数は約129万人、前年同期比3.2%増(10日)

・内務省統計局が発表。このうち、約47万人(36%)が旅行者。